

中国 3 「読むこと」(古典)に関する問題③
年 組 番 氏名

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、^(注1)恵心僧都^(注1)、一日、庭前に草を食する鹿^{しか}を、人をして打ち追はしむ。時に人あり、問うて

いはく、師、慈悲なきに似たり。草を惜しんで、畜生を悩ますと。僧都いはく、我、もしこれを

^(注2)
(思いやりがないように見える)

^(注3)
(苦しめている)

打たずんば、この鹿、人に馴れて悪人に近づかん時、必ず殺されん。この故に打つなりと。

(打たなかったら)

鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事、かくのごとし。

^(注1)
(すじみち)

^(注2)
(このとおりである)

(『正法眼蔵随聞記』による。)

(注1) 恵心僧都||平安時代の僧源信のこと。

(注2) 「○○をして□□しむ」||「○○に命じて□□させる」の意。

(注3) 畜生||ここでは、けもの一般のこと。

問一 文章中の恵心僧都の優しさがわかる部分を引用して書き抜きながら、「本当の優しさ」についてあなたの考えを書きなさい。

問二 「いはく」を現代仮名遣いに直して書きなさい。また、現代語での意味を書きなさい。

現代仮名遣い

現代語での意味

《解答例》

「鹿を打つは慈悲なきに似たれども、内心の道理、慈悲余れる事、かくのごとし。」とあり、私情から鹿を打たせて追い払ったのではない。野生の鹿を独り立ちさせるために、あえて厳しく対処しているのである。

「優しさ」というと、親切にかばったり守ったりするという、相手に甘く接する行為がイメージされる。しかし、「本当の優しさ」とは、深い思いやりを持って相手のことを本気で考え、たとえその行為自体が相手に厳しいものであっても、毅然として対処するようなことなのだと思います。

《評価のポイント》

A 一般的に理解される「優しさ」と「本当の優しさ」の違いに触れながら、恵心僧都が鹿を打った真の理由と適切に関連づけて説明している。

B 「本当の優しさ」は厳しく接することを含んでいることが説明されている。

問二 「いはく」を現代仮名遣いに直して書きなさい。また、現代語での意味を書きなさい。

現代仮名遣い

いわく

現代語での意味

言うことには